



令和2年4月1日現在
自治会別住民基本台帳動態統計表より

みんな自治会に加入しているの？

全国的に自治会加入率の減少が叫ばれています。「自治会の必要性を感じない」「近所付き合いが大変そう」「役員になりたくない」などさまざまな要因が考えられます。

本市の自治会加入率は、平成27年4月1日時点では77.46%であり、わずかに減少しています。このまま加入者が減り続け自治会活動が停滞すると、支援を必要とする住民の孤立や地域の防災力の低下などを招く恐れもあります。

さまざまな課題を抱える中、自治会では地域の実情に合わせた事業の見直しを行っています。



自治会に加入するにはどうしたらいいの？

お住まいの自治会長や役員、班長に申し出るか、まちづくり協働課にご相談ください。まちづくり協働課では、自治会活動を紹介するパンフレットを配付しています。

堀上町 五月 住民ファーストで安全・安心なまちづくり



日々、さまざまな価値観に触れ、人間の幅が広がっていくのを実感しています。



五月自治会 自治会長 松岡 静司さん

近江八幡駅前から続くサンロード沿いの商店街から、桐原東小学校のあたりまで縦長に伸びる五月自治会。堀上町にある同自治会には約2000人が生活し、中でも40代〜50代の働き盛りの世代が最も多く、65歳以上の高齢者も増えてきています。

「何か困りごとがあれば気軽に助けて」と言える自治会を」と自治会長の松岡さん。安全・安心で親しみやすい自治会にするためには、自治会が積極的に窓口になる姿勢が大事といいます。

五月自治会では、高齢者が困りごとを気軽に言える環境づくりとして「五月110番」という取り組みを実施。住民の具体的な困りごとをアンケート調査し、支援の内容と運営ルールをつくりました。この取り組みの実行部隊として、

自治会内に住む看護師などの医療職、介護福祉士などの福祉職や大工さんなど、それぞれの経験や専門知識を活かして困りごとを解決する「お助け隊」が活躍し、住民同士の顔が見える交流にもつながっています。

防災の取り組みにも力を入れていきます。災害などの非常時に備え、全住民の家族構成や緊急連絡先などを記載した住民台帳を作成し、随時修正しながら5年に1回内容を更新。支援や見守りが必要な住民の把握などに活用しています。また、火事や地震、風水害が起きた時に住民がどう行動すればよいかをリーフレットを作成し、住民へ配布。さらに、自治会内の避難場所とそこまでの所要時間を各世帯ごとに細かく計測し、集約したマップも作成し、住民に回覧することも

に、自治会館内に掲示もしています。災害時には、自治会館が防災本部となり、防災放送で放送設備を載せた軽トラックで地域を巡回し、住民に注意を促すなどのきめ細かな支援を行っています。

「高齢者だけではなく、子どもたちも大事にしたいと思っています。コロナ禍で学校が休校となったたり、自治会のイベントが中止となったりと、子どもたちの居場所がなくなってきたりしています。やめるのは簡単ですが、子どもたちの思い出しに何も残りません。開催時間を分散するなど、やり方を工夫していきたいです。そのためには、若い人たちの新しく柔軟な感性が必要です」と松岡さん。

日々、住民のニーズを拾い上げ、それに応える五月自治会には、住民ファーストの温かい空気が流れています。

Interview

地域のために頑張る人たちの思いは？

皆さんは、自治会がどんな活動をしているか知っていますか。普段何気なく生活していても、いざというときには「遠くの親戚より近くの他人」。すぐに駆け付けられるのは近所に住む人たちです。知っているようで実はよく知らない「自治会」。今回は、市内2自治会の活動について紹介します。

自治会はどのような活動をしているの？

自治会では、同じ地域に住む人たちが自分たちの地域を住みやすいまちにしていこうと、以下のようにさまざまな活動を行っています。

- イベント**
お祭りやスポーツ大会、子育て・高齢者サロンなどで楽しく交流。身近な人と知り合いになります。
- 防犯活動**
防犯パトロール、防犯灯の維持管理、高齢者の見守りなど、安心・安全なまちづくりを推進します。
- 防災活動**
防災訓練の実施、自主防災組織の活動など、防災意識の向上と安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。
- 環境美化活動**
ごみステーションの維持管理、道路や河川の清掃など、美しく住みやすいまちづくりに努めています。
- 広報紙などの配布**
広報紙をはじめとする市からのお知らせ、地域行事のお知らせなど、まちの情報をタイムリーに知ることができます。

新しい風がコスモス畑に吹き抜ける



野田町まちづくり委員会青年部
部長 田中 稔規さん
ひろあき 杉本 郭明さん
まさのり 中井 勝利さん



広報おうみはちまん 2020.10.1

県道26号沿いのどかな田園風景が広がる野田町。県道沿いの緑化やごみのポイ捨てを防止するため、休耕田を利用して植えられた約200万本のコスモス畑は、今では県内最大級の大きさに。毎年秋にはコスモスマつりが開かれ、市内外から多くの見物客が訪れます。農村集落である野田町は、若い人は就職や進学でまちを離れていく人が多く、町内には昔から住む人たちが残ります。そんな野田町に変化が訪れます。新たな住宅地の開発です。

「6年ほど前から、集落の北部に新しく住宅地ができ、現在までに13軒の家が建ちました。続々と転入される子育て世帯の人たちが、地域の中に入ってきていきやすいように、自治会のまちづくり委員会で青年部を立ち上げ、部長に就任しま

した」と田中さん。昔からの集落内に住む田中さんには、正直、新しい人たちが入ってくると思えず、半ば半信半疑で始めたといいます。

「本当に入ってきてくれるかな…」しかし、予想とは反対に、少しずつ新しい人たちに声をかけ、集まりを繰り返した結果、人が人を呼び、現在では20代から40代までの34人が加入するまでに。今では、コスモスマつりでたこ焼きや焼きそば、子ども向けにヨーヨーつりやスーパースポーツなどを出店したり、学区の運動会に青年部が中心となって参加し、2年連続優勝したりするなど活動の場を広げています。また、青年部には子育て世帯が多いため、子ども会行事も中心となって参加しています。

「顔見知りが多い地域にすることは自治会

加入のメリットだと思っています。回覧板が回ってきて町内の情報も手に入るし、近所で出会ったら気軽に声を掛け合い、世間話をする事ができます。今では、同じ組の人たちとバーベキューを楽しんだりすることもあります。自治会に入ると本当に良かったと感じています」と杉本さんと中井さんは口をそろえます。

「最近では、コロナ禍で青年部の集まりが少なくなり、寂しいくらいです」と中井さん。新しい人たちの勢いが青年部を通じて自治会内を活性化していく一方で、子育て世代のママ同士の交流が少なくなっている課題もあります。

「今後も青年部が新しい人たちと昔から住んでいる人たちをつなぐ橋渡しになれば」と3人は期待を寄せます。

⚠️ 今年のコスモスマつりは中止です。